

首脳レベルで安保理改革に関する初めての具体的な成果文書(※)。今後の取組推進に弾みをつけた。
(※2005年首脳文書は「早期の安保理改革」、2020年首脳文書は「安保理改革の議論に新たな命を吹き込む」等)

- 初めて、安保理改革の「**緊急**」の**必要性**に言及。
- 2030年**までの国際機関への途上国の参加拡大を求めるSDGs16.8に配慮することで、安保理改革について**間接的にタイムラインを設定**。
- 様々な改革モデル(※G4モデル、アフリカ・モデル等、議席配分や拒否権等の各種提案)を基に、**統合モデルの作成を目指す**よう呼びかけ。
- 常任理事国議席を拡大するかには言及せず、議席カテゴリの論点に関し今後合意を見出す**とした。
- 安保理における**拒否権行使の抑制**を促した。

(成果文書関連部分のポイント)

アクション39: 安保理を代表性、包摂性、透明性、効率性、実効性、民主性及び説明責任を備えたものにする緊急の必要性を認識し、安保理を改革する。

- アフリカに対する歴史的不正義を正し、アフリカを特別なケースとして扱う。アジア太平洋、ラ米及びカリブのような、地域・グループの代表性を向上させる(67a)
- SDGs16.8に配慮し、発展途上国や中小国の代表性を向上させる(67b)
- IGNの議論を踏まえ、議席カテゴリの論点に関し、合意を見出すべく努力する(67d)
- 拒否権の将来について、範囲や行使を限定する議論含め、合意のために努力する(67f)

アクション40: 安保理改革に関する政府間交渉(IGN)枠組を、優先事項として遅滞なく強化する。

- 加盟国が提出したモデル等に基づく**将来的な統合モデル作成**を視野に、更なるモデル提出・修正を奨励する。(68a)

アクション41: 国際の平和と安全の維持のための安保理の対応と、安保理と総会の関係を強化する。

- 「平和のための結集」決議や「拒否権イニシアティブ」含め、安保理と総会等との連携を強化する(69c)